令和７年度　日本大学自主創造プロジェクト

日大生のやってみたいを実現するプロジェクト成果報告書

２０２５０１８

プロジェクト名　循環型農業への挑戦「ロハスの畑プロジェクト」

プロジェクトの概要

近年、放置竹林による竹害が深刻化している。そこで、この問題解決のため、学内での竹筋コンクリート研究から生じる竹材に着目した。この竹の廃材を竹パウダーに加工し、農薬や化学肥料に頼らない循環型農業を実践するため、さつまいも栽培の実証実験を行った。
また、このプロジェクトの活動を通じて、「地域連携の強化」、「環境保全への理解促進」、「農業と工学の連携による新たな視点の発信」を目的とした体験型のさまざまな取り組みも実施した。

プロジェクトの結果・成果

３年目を迎えた今年度は、深刻化する竹害対策として、放置竹林から得られる竹パウダーをさつまいも畑の土壌改良に活用した。畑全体に竹パウダーを撒き、土と混和した結果、土がふかふかになり、劇的に土壌が改善した。これにより、収穫量は昨年度の約 160kg から約 200kg へと増加した。竹パウダーの雑草抑制効果と保水性向上により、管理作業の負担と作業回数が軽減した。また、さつまいもの生育も改善し、直線的な個体の割合が増加した。土壌環境の改善は、作物の品質向上に大きく寄与した可能性が示唆される。さらに、これまでのロハスの畑プロジェクトの活動が農林水産省東北農政局に評価され、農林水産省の「みどり戦略の学生チャレンジ」への参加要請を受け、取り組みが東北農政局次長賞を受賞した。
このプロジェクトでは、単にさつまいもを栽培するだけでなく、地域社会の活性化を重要な目的としており、地域の人々や様々な団体と積極的な交流を通じて、地域コミュニティを活性化させた。収穫したさつまいもを多様なイベントで活用する取り組みとして、ＪＡ福島さくらとの連携によるＪＡ直売所での販売、郡山観光交通株式会社との連携による災害用水素キッチンカーによる「さつまいもサンド」の提供、学生食堂との連携による学園祭での校友イベントへのさつまいもご飯の提供、冷凍保存したさつまいもを加工し、スイートポテトを提供する期間限定の学内カフェの運営などを実施した。
３年間にわたる本プロジェクトでは、栽培から加工、販売、地域貢献までを一貫して達成できた。多くの方々の協力により無事に完了し、農業の難しさや継続の重要性を深く認識した。また、学内外の連携が強化されたことも大きな成果となった。この取り組みの成果を社会に発信し、評価を得られたことは、次年度以降の活動に向けた重要な基盤となった。

活動写真





